

中国人特化型老人ホーム

Nursing home specific to Chinese

中央大学経済学部和田ゼミナール（久保班）

学生氏名：久保雄大 鈴木創士 濱崎啓汰 霜越七星 中野由愛

指導教員：和田光平

所属先：中央大学 経済学部 和田ゼミ

キーワード：介護、在日外国人、老人ホーム、SDGs、地域創生

1.はじめに

近年、在日外国人が急激に増加している。その中で私たちは、在日外国人の老後に着目した。日本の老人ホームについて調査を行ったところ、外国人高齢者に対応している施設はかなり少なく、環境も整っていなかった。また環境不整備のため受け入れたとしても、満足にサービスを行えていないのが現状である。

そのため、今後更に増えていく在日外国人の高齢化に対応した介護施設を作っていきたい。その中でも訪日人数が最も多い中国人を顧客とした「中国人特化型老人ホーム」を提案する。

2.現状分析・課題

(1)現状分析

2022年時点での全国の中国人高齢者数は24000人にも及ぶ。しかし、中国語の対応が可能な介護事業所は最も多い東京でも54件に留まっている。コロナウイルスの影響が収まってきた今、中国人高齢者数は増加すると考えられる。そのため、対応可能な事業所のニーズはこれまで以上に増えると私たちは考える。

また江戸川区でのアンケート調査（外国人高齢者の受け入れや実際のケアの場面において、困ったこと）によると「サービス利用や入居・入所時」と「事業所内・施設内での生活時」が最も高くなっていた。これは文化や習慣、言語の違いからくる課題である。しかし、江戸川区で受け入れを行っている事業所で「文化や習慣、宗教等についての職員研

修を実施する」と回答した割合は13%である。つまり、外国人高齢者に対する環境整備はあまり行われていないのが現状である。

(2)課題

現在の日本の老人ホームが外国人を受け入れるにあたっては5つの壁が存在する。①文化の壁②識字の壁③食(味覚)の壁④習慣の壁⑤心の壁である。

①文化の壁：基本的なマナーが日本とは異なり、同じ施設内にいる他文化の入居者に不快な思いをさせてしまう。

②言語の壁：施設内の様々な文字が日本語で統一され、理解が困難であることに加え、他言語を話す入居者や施設従業員とのコミュニケーションが難しい。

③食(味覚)の壁：料理が日本風なため慣れ親しんだ味付けではない。また、中国人高齢者の多くは日本の介護食に抵抗を感じる傾向にある。

④習慣の壁：中国ではイベントごとを重視する習慣があるが、中国でメジャーな春節や中秋節は取り上げられない。また、日本独自のレクリエーションになじみがないため参加できない。

⑤心の壁：中国語を第一言語とするため、それ以外の言語を話す人との意思疎通、信頼関係構築が困難に感じてしまう。

3.提案

在日中国人が多いという八王子市の特色を生かし、前述の5つの壁を乗り越えるため私たちは

「中国人特化型老人ホームの建設」を提案する。

(1)介護施設形態

介護付有料老人ホーム：自立している方から要介護状態5の方まで入居可能な混合型施設

(2)入居者

要介護状態が5までの中国人高齢者

八王子市に加え、他地域に住む中国人高齢者も顧客として想定

(3)職員

日本人介護従事者、中国人介護従事者、中国人ケアスタッフ（日本語でコミュニケーションが取れる方）

(4)サービス内容

(I)中国の文化に基づいた生活様式の確立

春節や中秋節のような定例的なイベントに加え、中国文化に基づいた手遊び歌などを活用したリハビリを行うことで、前述した①文化の壁④習慣の壁を解消する。

・イベント例 中秋節 お月見を楽しみながら、五穀豊穡をお祈りする。その際、伝統的な食べ物である月餅等を用意する。

・レクリエーション例 香煙牌（シアンイェンパイ）という日本のメンコのような遊び

(II)中国語でのコミュニケーション体制の設立

中国人ケアスタッフや留学生などの在日中国人を従業員として常駐させる。そうすることで、中国語によるコミュニケーションを可能にし、認知症などによるコミュニケーションリスクを軽減させることができ、②言語の壁⑤心の壁を解消する。また、言語が通じるため入居者の介護の際の不満や要望を汲み取ることができる。これより、入居者を危険に晒すことなくサービスを提供できる。

(III)中国料理を基調とした食事管理

中国料理に精通している栄養管理士を雇うことで、母国料理を健康的に摂取することを可能にし、③食(味覚)の壁を解消する。また、中国は介護食があまり発展していない。そこで、日本の介護食の技術を生かし、咀嚼力や嚥下機能が低下した高齢者に対し、段階的に粘度や固さを変えた食べやすい食事を提供する。加えて、中国人は食に

対してのこだわりがとて強いため、栄養や旬の食材を生かして「医食同源」の文化を尊重し、おかわり自由の方式を採用することで栄養を管理しつつ、量を担保する。

4.提案による八王子市へのメリット

(1)八王子市に施設を建設することにより、他地域から入居者及び入居者家族が訪れ、八王子市の経済活性化に繋がる。

(2)八王子市が掲げる「みんなにとっても住みやすいまち」の実現および課題解決につなげることができる。

(3)SDGsに取り組む自治体として認知され、SDGs未来都市に選定される可能性がある。実例として、愛知県知立市の多文化共生を目指した持続可能なまちづくりに向けた取り組みがSDGs未来都市に選定されるなどがある。企業や教育機関を含むステークホルダーに注目される事で、資金の援助や企業誘致に繋がった事例などがあり、地域創生が活発に繋がると想定される。

5.おわりに

将来的には、韓国人やアメリカ人だけではなく、宗教毎の施設にも幅を広げていくことを考えている。また、この施設を契機に八王子市及び日本のダイバーシティ化に拍車をかけ、共生社会の実現に寄与したい。

参考文献

外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査報告書

https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r04_111jigyohokokusho.pdf

愛知県「外国人高齢者に関する実態調査報告書」
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/gaikokujinkoureisya-chousa.html>

介護付き有料老人ホームとは

<https://www.cocofump.co.jp/articles/kaigo/27/>